高等部道徳科学習指導案 『文化祭の準備』

**１　主題名**　互いに分かり合う　Ｂ-(９）　相互理解　寛容

**2　ねらいと教材**

（1）ねらい

・互いに分かり合う

・自分の意見や考えを相手に伝えることで、互いに分かり合うことができる。

・相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすることができる。

（2）教材　　文化祭の準備　（P46-49）

**３ 主題設定の理由**

　本主題は、以下の中学校新学習指導要領「特別の教科 道徳」（平成２９年３月告示）の内容項目の　ねらいを受け、個々の生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況及び経験等に応じるとともに、青年期の特性を考慮して、健全な社会生活を営む上に必要な道徳性を一層高めるために、適切に指導の重点を定め、指導内容を具体化した。

|  |
| --- |
| Ｂ　主として人との関わりに関すること　　（９）　相互理解　寛容  自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。 |

1. ねらいとする道徳的価値について【価値観】

人間相互理解は、自分の考えや意見を発信すること、互いが相手の存在の独自性を認め、相手の考えや立場を尊重することが必要である。実際の生活場面では、自分なりの角度や視点から物事を見ることが多い。

客観的な事例を基に、相互のその時の気持ちや考え方、個性等、広い視野に立って考えることで、自分の気持ちを伝えながらも、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、他者理解する力、また寛容の心を培っていきたい。

（２）生徒の実態について【生徒観】

自分の気持ちを素直に言葉にできる生徒を対象にする。自分の気持ちだけではなく、相手の気持ちを聞き、理解することが学習課題である。抽象的な概念の理解が難しい生徒に対しては、具体的な事例や挿絵等を提示する配慮を行う。

日常生活や他の教科学習の中でも、相互に意見を出し合いまとめていく学習を意図的に取り入れ、本学習が生活全般で般化していけるよう指導を積み重ねていく。

（３）教材について【教材観】

２名の生徒の文化祭の準備で背景画を作成した時に起きた出来事を題材としている。生徒間のトラブルになりかねない事例であるが、その時のお互いの気持ちを理解し合うことで、トラブルにはならず、友好な人間関係を形成できるという話である。

この話を読み、その時の両者の気持ちや友好な人間関係を築けた理由を考察する学習を行っていくことで、実際に自分自身の生活を振り返り、改めていくことができ、他者理解、寛容な心をもち人間関係を構築していく力を養うことができる教材である。

**４　学習指導計画**

（1）全体計画　１時間（本時）

（2）準備　　　場面絵、補助プリント、タブレット端末、モニター

（3）指導過程

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 段階 | 時間 | 学習活動（主な発問） | 予想される生徒の発言 | 指導上の留意点  ☆評価の観点 |
| 導  入 |  | ・文化祭での友人との思い出を話し合う。 | ・一緒に作品を作った。  ・舞台発表をした。  ・友人と協力をして文化祭ができて楽しかった。 | ・生徒が思い出しやすいように、文化祭で行った内容等を伝える。  ・これまでの経験を振り返る。  ☆文化祭の思い出の発表を通して自分の気持ちを伝える。  （思・判・表）  ・生徒の発言を板書やタブレット端末に残しておく。 |
| 展  開 |  | ・教材「文化祭の準備」を読む。  ・本文P４７ ３行目までを読む。  〇本文P４７ ３行目までの内容を見て一度考えてみよう。  ・本文P４７ ４行目以降を読む。  ・本文を全部読んだうえで、本話を再考する。  ・互いの意見を聞いた上で、自分だったらこの場面でどう対応するか、その理由を話し合う。  ・本文P４９の事例をロールプレーをして考え、複数人で話し合い、発表をする。  事例１  校庭で一緒に遊んでいた時にはねた泥水がかかった。  事例２  貸していた本を汚された。 | 課題　あなたが寿人さんだったらバケツを倒した勇人さんをどう思いますか。  許せる  ・バケツを倒したことに悪気が無いから。  許せない  ・遊んでいた結果、バケツを倒すことにつながったから。  課題　なぜ寿人さんは勇人さんを怒らなかったのですか。  ・勇人さんがすぐに謝ったから。  ・野球大会前に手伝ってもらっているから。  ・優しいから。  ・寿人さんと同じように対応する。そうすれば仲良くすることができる。  課題　このようなときあなたは相手をどのように思うだろうか。  ・楽しいから良い。  ・意図していないからしょうがない。  ・自分も泥水をかけてしまうかもしれない。  ・服を洗えばいいだけ。  ・理由を知りたい。  ・汚れる程読んだのか。  ・悲しい気持ちは伝えたい。 | ・場面絵をモニターに映しておき、イメージをもちやすいようにする。  ・状況だけ見て素直にどう思ったかを発表するように促す。  ☆自分の考えを発表することができたか。  （知・技）  ・生徒の発言を板書やタブレット端末に残しておく。  ☆自分の考えを発表することができたか。  （知・技）  ・生徒の発言を板書やタブレット端末に残しておく。  ・生徒が考えた寿人さんが怒らなかった理由について振り返った上で、自分だったらどう対応するか考える。  ☆他者の意見を聞いたうえで自分の考えをまとめることができたか。  （知・技）（態度）  ・場面絵をモニターに映しておき、イメージをもちやすいようにする。  ・自分の思いや考えを素直に発表するように伝える。  ・複数人で話し合いをすることで、様々な意見や考えがあることに気が付けるように促す。  ・出てきた意見を書くプリントやタブレット端末のアプリを準備しておく。  ☆自分の考えを発表することができたか。（知・技）  ☆他者の意見を聞いたうえで自分の考えをまとめることができたか。（知・技）（態度） |
| 終  末 |  | ・お互いに話し合うことができたことを褒める。  ・人間関係の中で自分の思いや意見、他者の思いや意見があり、相互理解する大切さを知る。  ・相互理解した上で、相手を受け入れる寛容な心を培うことの大切さを知る。 | ・自分の気持ちや意見を伝えることができた。  ・みんなの意見を聞けた。 | ・話し合いの中で自分の意見を伝えた上で、他者の意見も聞くことができたことを評価する。  ・今後の生活の中で、事例のような状況があった時に、本学習を生かすように言葉かけをする。 |

（4）終末での教師の説話例

本文のようなことは日常的に起きることであり、その都度、自分の気持ちだけを考えるのではなく、相手の気持ちや状況も考え、互いに分かり合うことを推奨する。

相互理解することが、寛容な心を培うことにつながることを改めて伝える。

複数人で話すことで、自分の考えや意見を振り返ること、他者に様々な考えや意見があることを、振り返る。